

キャラクター名
桜 カイト

プレイヤー名

シンドローム	ウロボロス ブラックドッグ		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	高校生
	オプション		年齢	16	性別	男の子
覚醒	渴望	衝動	恐怖	初期侵食率	38	%
出自	義理の両親	経験	心の壁	邂逅	師匠	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	33
肉体	3	0	0			3	行動値	11
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	11
精神	3	1	3			7	戦闘移動	16
社会	0	0	1			1	全力移動	32

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	8		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:	2		情報: UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
100以下	白兵	10r-1	3	22+9		
100越え	白兵	13r-1	3	43+16+12		

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
デモンズシード	
コネ噂好きの友人	
コネUGN幹部	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
変異種	P	N		
橘アクト(GR)	P 信頼	N 敵愾心		
可能性の先へPCの皆	P 連帯感	N 不安		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 4 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセプト:ウロボロス	2	2	シンドローム					
効果:	C値-Lv							
原初の黒:鏡の盾	1	8+2	オート				100	
効果:	受けたダメージを相手に与える(最大Lv×20) シリアLv回							
原初の赤:振動球	1	3+1	RC					
効果:	攻撃力+Lv 装甲無視							
無形の影	1	4	精神					
効果:	【精神】判定 シリアLv1回							
螺旋の悪魔	5	3	セットアップ					
効果:	暴走付与 攻撃力+Lv×3							
レックレスフォース	3	(2)	常時					
効果:	暴走時Xジャッジ判定ダメージ+Lv個							
クレイジードライブ	3	5	シンドローム				80	
効果:	攻撃力+Lv×4 暴走時のみ使用可							
降魔の雷	4	4	RC		範囲選択			
効果:	攻撃力+Lv×4 シリア3回							
イージーフェイク:軽功	1							
効果:	「ええと…こう…かな？」							
道化の出し物	1							
効果:	「あっごめんね…真似、ばっかりして…」							
人間発電機	1							
効果:								
効果:								
効果:								

桜 海斗/さくら かいと
CN きぼうのあすふーチャー

よくいえば謙虚で愛嬌がある、悪く言えばネガティブでのろまドジ。優しいけれど優しすぎるが故に優柔不断。あと背が小さい、コンプレックス、いつかアクトくんと同じくらい大きくなりたい!

幼い頃に両親を事故でなくし、親戚の家に預けられて育った。必要なものは用意してもらったし不自由のない生活だったが親戚が与えてくれたのはそれだけで愛情は感じられなかった。
覚醒してからはアクトくんと橘家の家族とも距離が縮まり気がつけば橘家でよくご飯をご馳走になるような仲に。アクトくんとは仲良くなる喜びと同時に少しだけ暖かい家族を持っていない恥ずかしさに胸が痛むこともあった。

アクトくんとは小学生のときから同級生でクラスもずっと同じだったがお互い会話をするようなことはなかった。ただカイトは一方向的にアクトくんの真っ直ぐに生きる姿勢が眩しくて勝手に尊敬と羨望の目でずっと見てはいた。
だから長いこと彼の背中を見ていたというのに彼の名前を呼んだのはジャーム襲撃事件の時が初めてだった。
見たことのない化け物に彼が襲われる直前、何もできることなんてないはずなのに何故か彼の名を叫んで彼に手を伸ばしていた。
次の瞬間あたりをどす黒い影が包み込みそれを割るように雷が劈かれ雷撃の一部がアクトに襲撃した。
この時カイトは理解した。どういうわけか自身の体から溢れんばかりの雷が放たれたことを。そしてそれを抑えることができずアクトの身を傷つけたことを。
あの瞬間の映像は3年たった今でもカイトの脳裏に焼き付いている。
と同時にそのせいでカイトは今でも自身の力に怯え使う度に恐怖に身をのまれそうになる。
カイト自身は自身の力に対してその恐怖を打ち消さなくてはならないと思っているようだが……